



浜崎とクジラ

かつて、「大日本山口県阿武郡萩港」には、「長蘆堂(ちようしゅうどう)」と呼ばれる「海陸物産食品缶詰製造」を行う工場がありました。ここでは、「くじら日本煮(大和煮)」の缶詰が製造されていました。

長蘆堂製造の日本煮缶詰については、朝日を背景に潮吹くクジラと、海中のクジラとをデザインした二種類の缶詰ラベルが伝わっています。マッチの箱絵のような趣のある凝ったデザインで、大阪新町の会田石印で印刷されたものです。

缶詰ラベルには、売りさばき本店として萩浜崎町の「馬庭三四郎」という人物名が印刷されています。他にも特約販売店として、同じく浜崎町の個人名や台湾基隆の商社名が印刷されています。

萩の地で、鯨肉が缶詰に加工されていたというのですが、この缶詰、いつ頃、誰が、どういった経緯で製造を始めたのでしょうか。捕鯨拠点の無かった萩で、どのようにして鯨肉を確保したのでしょうか。

このような時、地域に伝えられる地方新聞の記事が大変役に立ちます。明治37年(1904)9月30日の『防長新聞』には、日本遠洋漁業株式会社が、萩浜崎町に缶詰製造の分工場を設けたことが報じられています。

この記事には、「多年、魚類の缶詰製造に従事してきた工場主の馬庭三四郎氏のところへ技師を派遣し、その指導のもと、熟練の職工たちにより既に一万缶を製造した」といったことが記されています。

日本遠洋漁業株式会社は、萩出身の岡十郎が、明治32年(1899)に仙崎を拠点に創設した近代捕鯨会社です。韓海(朝鮮半島近海)での捕鯨操業で業績を伸ばし、やがて日本最大の近代捕鯨会社へと発展します。

先の記事の前後には、この日本遠洋漁業株式会社の運搬船が下関港に入港し、韓海で捕獲されたクジラの肉をもたらしたという記事が度々掲載されています。

同じ明治37年(1904)11月11日の『防長新聞』には、軍が、「阿武郡萩町馬庭三四郎、熊毛郡室積村江村英治、豊浦郡小串村里美万吉の三氏、及び大津郡仙崎村の日本遠洋漁業株式会社」に、缶詰の製造、納入を求めるといふ記事も出てきます。この年の2月に開戦して激しさを増していた日露戦争の影響で、軍では、糧食とする缶詰を大量に必要とされていたようです。

岡十郎の起こした近代捕鯨会社が業績を伸ばしつつあり、鯨肉が大量に確保できたこと、また、以前から魚介類缶詰を製造していた馬庭三四郎氏の工場が萩浜崎に存在したこと、そして戦争の影響で軍隊における缶詰の需要が高まったことなどが、萩浜崎において「くじら日本煮」が製造されるきっかけであったと考えることができます。

製造が始まったのは、おそらく明治37年(1904)頃です。どこに工場があったかについては、現段階では不明で、今後、更なる資料の掘り起こしが必要です。いずれにしても、浜崎・浜崎の人たちとクジラとは、意外なかかわりがあったということです。



※浜風だより12号より復刻転載 清水満幸

旧馬庭家が一棟貸しの宿になります

馬庭家は上記記事にあるように、かつては海産物問屋を営み、後に缶詰工場を営んでいました。主屋は庭を挟んだ土蔵とともに明治前期の建築で、大黒柱に檜材を用いるなど明治期の浜崎を代表する町家建築です。

長きに亘り空き家となっており、現状はかなり損傷していましたが、一棟貸しの宿「**間庭(まにわ)185**」として開業することになり、昨年10月に起工式が執り行われました。8月末完工、10月開業の予定で工事が進められています。完成の折には浜崎の皆さんにお披露目されます。浜崎の商家が宿として蘇ります。



間庭

185

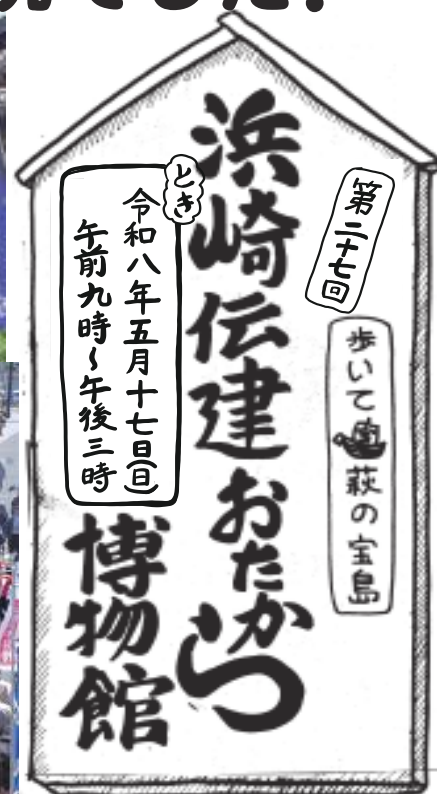


工事中の旧馬庭家

今回も大盛況でした!



雑魚場食堂



山口県警察音楽隊の演奏
浜崎ブックマーケット

5月17日に開催した浜崎伝建おたから博物館には、たくさんのお客様が来場ください、たいへん賑わいました。始めて30年近くたっても、まだお客様が増え続けている、リピーターも多く、イベントを通して浜崎の魅力を発信できていると思います。住民の皆さんが協力しておもてなしをしているおかげです。お客様や出店業者さんに聞いても「おたからは楽しい」と言っていました。来年も頑張ります。



あっちゃん先生の ひとことアドバイス

季節の変わり目に体調を崩したことがある方は多いのではないのでしょうか。

日によって暑かったり涼しかったり、気温差や気圧の変化で自律神経のバランスが乱れやすくなり、免疫機能を鈍らせることが原因と考えられます。自律神経が乱れると血流も悪くなり、血流の悪化は冷えを招きます。体温が1度下がると免疫力は30%低下するとも言われています。季節の変わり目に風邪をひかないためのセルフケアのポイントをお話したいと思います。

1. 規則的な睡眠を取り、朝の光を浴びて体内時計を整えましょう。
2. ストレスを溜めず、特に寝る前は心身をしっかり休ませ、自分なりのリラックス方法で副交感神経の働きを高めましょう。
3. 体温を上げるため、朝食をしっかり食べましょう。
4. 腸の環境を整える発酵食品(ヨーグルト、納豆、味噌など)を積極的に摂りましょう。
5. 寒暖差対策で脱ぎ着しやすい上着を活用するなど、特に三首(首元、手首、足首)を冷やさず体温を安定させましょう。

しかしながらセルフケアをして予防していても風邪をひいてしまうことはあります。

以下の症状がみられる場合は注意が必要です。

- * 発熱(37.5度以上)が2日以上続く、または急な高熱が出た。
 - * 咳がひどく呼吸が苦しい、胸の痛みを伴う。
 - * 水分が摂れず脱水症状の兆候がある。
 - * 異常な倦怠感があり日常生活に支障が出ている。
 - * 市販薬を飲んでも改善しない。むしろ悪化している。
 - * 喉の痛みが非常に強く、扁桃腺の腫れがひかない。
- 風邪といっても様々なウイルスや細菌により、気管支炎や肺炎、副鼻腔炎を合併することもあるので、高齢の方や子供、持病がある方は早めの受診をお勧めします。

わたぬきクリニック院長 綿貫篤志



はじめまして!



(一社)モチベース

(浜崎一区)

2月より「菟市地域おこし協力隊」として着任しました。菟市教育委員会に所属しながら、浜崎に事務所がある一般社団法人 motibase (モチベース) に受け入れていただき菟市の探究学習(自分の興味関心を見つけたり、追求し学びを得る学習)の推進をミッションに3年間活動します。

学生時代にボランティア活動などで地域の方と関わる中で山口県が大好きだと感じるようになり、強く関心のあった教育の分野で就職を考えた時に「菟市地域おこし協力隊」へエントリーすることを決めました。

今後は、教育という分野を通じて菟がより県内外にとって魅力的な街になるよう尽力していきます。具体的には子どもたちに探究学習の面白さや地域・仲間の大切さを感じてもらえるような取り組みや、学校や地域の方々と探究学習の勉強会、子どもたちを応援するネットワークの形成などを考えています。

まだ菟にきたばかりで右も左もわかっておりませんが、おすすめのイベントやお店などいろいろ教えていただけますと嬉しいです。よろしくお願いします!

菅新汰です



- ◆ おたから博物館は好天に恵まれ、たくさんのお客様をお迎えしました。5月中旬というのに、暑かったですね。冷たい飲み物がたくさん売れて、自販機が空っぽになっていました。今年も春から初夏への助走をつけずに、いきなり夏がやってきた感じでした。あっちゃん先生のアドバイスを参考にして、体調管理に気を付けましょう。さあ、次は夏祭りです。
- ◆ 編集委員: 宮田・川久保・岩崎・石村・平野・末益

